

神戸市外大が医療通訳講座

神戸市外国語大(同市、センターFACIL)は、9月25日から来年度は医療通訳教育に関する共同研究を進めており、大(同)と協力して、学



船山伸也学長

生対象の講座「医療通訳」を開講。市関連の3病院が通訳報酬の一部を負担する仕組みを初めて開く。在日外国人の増加を受け、その医療を支える人材育成に力を入れている神戸市外国語大は、FACILや「医療通訳研究会」(同市中央区)が研修会

来月から 学生対象、看護大と連携

療通訳養成を進める大阪大と愛知県立大からも招く。患者、医療従事者それぞれの役割を想定した実践的な演習もある。

言語は英語が中心の予定だが、希望によっては中国語やスペイン語にも対応。講座は試験的な実施で、受講の希望者数などを見て、来年度以降の対応を考える。

県立大大学院

医工連携で 機器開発へ

兵庫県立大大学院工学研究科の医療健康情報技術研究センター(姫路市書写)が、工学系の技術を医療機器開発につなげるための研究を進めている。医療機関や健康機器メーカーと協力し、不妊症の診断機器などの実用化を目指す。

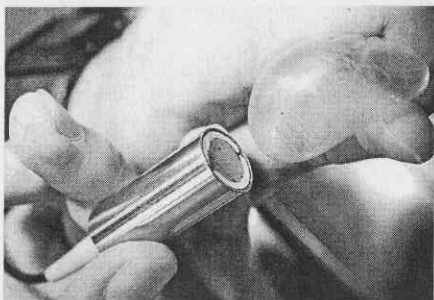
工学系の技術を生かした医療機器開発について話す畑豊センター長

同センターは2011年に設置。工学系の情報処理技術を生かし、磁気共鳴画像装置(MRI)やコンピュータ断層撮影装置(CT)といった機器の新たな活用方法を

探るなど、医学と工学の連携で研究する。既にシート上に寝転ぶだけでストレスの度合いが測れる装置などを実用化。姫路市医師会と共同研究などに向けた連携協定も結んでいる。

太さを判断

不妊症診断など臨床目指す



超音波による精細管診断の実験のイメージ。ゴムチューブの中にナイロン製の糸を入れ、その太さを調べる＝いずれも県立大大学院工学研究科

子が見つかる確率は半分にも満たないといわれる。そこで超音波で一定の太さがあり、精子が通る可能性が高い精細管があるかどうかや、太い精細管がどこにあるのかを術前に診断できるようにするが、研究の目的。これまで、ゴムチューブ内にナイロン製の糸を入れた模擬実験を経て、牛の睾丸でも実験を重ね、高い精度で太さが見分けられることを確認した。今後は臨床応用を目指す。

異常を把握

健康チェックや安全に開く機器の開発にも力を入れる。例えば、赤外線センサーを使い、独居高齢者の室内での異常行動を把握するシステム作り。トイレで長時間動か



このほか、歩く際の地面への圧力や歩幅などが医学に利用できる可能性がある。歩行センサーを割り出し、性はまだあやふやな部分の動きと心拍数を、実現すれば社会への胸に付けたセンサーで把握し、歩行中や安静中といった活動を自動的に推定するといったシステムも研究中だ。

同センターの畑豊セン

神戸新聞文化生活部・医療担当 FAX 078.360.5512 irtyou@kobe-np.co.jp

「肌の老化防止に効果」

するオーストラリアの研究が、自分が必要と感じた時だ米医学誌に掲載された。意外に日焼け止めを使った使用に、日焼け止めが光老化した日焼け止めは、地表への化を遅らせることができると、到達量が多いA波(UVA)を数値で比較し、有害作用がより強いB波(UVB)の両方を防ぐタイプ。研究は、豪クイーンズランド州に住む55歳未満の成人男

日焼け止め、いつ塗るの? 「毎日でしょう!」

コロン剤を使う手の甲のしわや詳細に型取りし、段階で評価し、終了時にこれらを数値で比較し、817人、終了の型が採取でき各グループのスクを算出した。判断で日焼け止

情報

【ゆずりは明石行事】ゆずりは明石は、がん患者らによる同市拠点の自助グループ。事務局の草野さん☎078-911-6761。詳細は次の通り。

ronで、治療や生活の悩みなどについて語り合う。無料で予約不要。〈明石薬しもう会〉9月9日10~13時、明石市相生町2の市立保健センター3階(JR・山陽明石駅から南東へ徒歩約8分)。免疫力を向上させる食事について、管理栄養士の福元雅代さんによる講話と実習。材料費を含め500円。要予約で先着25人。8月末締め切り。

6階の同センター(JR大阪駅から南東へ徒歩約10分)。10日は大学院文学研究科の土屋貴志准教授が「その、安全ですか?—イレッサ薬害からみえること」、25日は大学院生活科学研究科の小島明子准教授が「生活習慣病を予防するためには、どのような食生活がよいのか」とそれぞれ題して話す。対象は16歳以上。受講料各500円。同大学公開講座のホームページから、またはファクス(06-6344-5524)などで講座名と住所、氏名(フリガナ)、性

座)10月5日~11月9日(11月2日を除く)の毎週土曜各10~11時、11時10分~12時10分、神戸市中央区楠町7の同大学医学部臨床研究棟4階A講義室(市営地下鉄大倉山駅から北西へ徒歩約5分)。テーマは「再生医学でつくる医療の未来」。人工多能性幹細胞(iPS細胞)の臨床応用の展望などについて、専門の教員や研究者らが分かりやすく解説。受講料は5日間で計6200円。申し込みは8月23日から、所定の申込書で受け付ける。先着100人で9